

平成27年12月宮古市議会定例会一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項	
12月15日 (火曜日)	24番 茂市 敏之 議員 (復興を考える会)	1 カーフェリー関連について 2 観光振興について 3 集中豪雨と危機管理について	P 1 P 1 P 2
	19番 佐々木 勝 議員 (尽政クラブ)	1 復興事業について 2 フェリー航路開設について	P 3 P 3
	6番 鳥居 晋 議員 (復興を考える会)	1 観光地の整備について 2 技能指導者に強力な支援を	P 5 P 5
	4番 佐々木 清明 議員 (尽政クラブ)	1 サケの漁獲量不振の原因はなにか 2 湾内での海藻類の生育状況について 3 貝類の生育状況について 4 カキ養殖業の今後の見通しについて	P 6 P 6 P 6 P 6
	14番 橋本 久夫 議員 (ネクストみやこ)	1 港湾戦略について 2 国際化への対応について	P 7 P 8
12月16日 (水曜日)	12番 須賀原 チエ子 議員 (ネクストみやこ)	1 災害公営住宅入居後のコミュニティづくりについて 2 被災者住宅再建支援事業について 3 市民と行政の共生のあり方について 4 浚渫事業の実施について	P 9 P 9 P 9 P 10
	21番 竹花 邦彦 議員 (新風クラブ)	1 保育所の待機児童解消と市立保育所の保育士確保について 2 公契約条例の制定について	P 11 P 11
	2番 小島 直也 議員 (公明党)	1 不登校児童生徒の関わりについて 2 若者の政治参加について	P 12 P 12
	23番 坂下 正明 議員 (一新会)	1 川井地区のまちづくりと産業振興について	P 13
	5番 白石 雅一 議員 (復興を考える会)	1 宮古市の教育の現状と課題について 2 ICTを活用した地域づくりについて	P 14 P 14

質問月日	質問者	質問事項	
12月17日 (木曜日)	26番 田中 尚 議員 (日本共産党)	1 JR鉄道の復旧と今後の課題について 2 地域医療連携について	P 16 P 16
	20番 落合 久三 議員 (日本共産党)	1 TPPからの撤退、調印中止を国に求めるべき 2 中心市街地拠点施設整備事業について 3 サンマ・サケ漁不振を踏まえた水揚げ増対策について	P 17 P 17 P 18
	7番 中島 清吾 議員 (日本共産党)	1 田老診療所について 2 田老新駅について	P 19 P 19
	9番 内舘 勝則 議員 (新風クラブ)	1 積極的な自治組織活動の拠点づくりを 2 定住促進対策の戦略と具体的な取り組みについて 3 選挙権年齢 18 歳以上に向けての施策について	P 20 P 20 P 20
	8番 伊藤 清 議員 (一新会)	1 シカ対策について 2 宮古市墓園に合祀墓の設置を	P 21 P 21
12月18日 (金曜日)	1番 今村 正 議員 (無所属)	1 市庁舎移転について 2 生ごみ処理について 3 宮古市広域総合交流促進施設「シートピアなあと」について	P 22 P 22 P 22
	11番 佐々木 重勝 議員 (ネクストみやこ)	1 防災について 2 崎山地域の現状と課題について	P 24 P 24
	10番 北村 進 議員 (新風クラブ)	1 仮設商店街への支援について 2 引きこもりについて	P 25 P 25
	22番 松本 尚美 議員 (一新会)	1 三陸鉄道の自立について 2 地域連携の具体化について 3 事務事業評価はどうなっているか	P 26 P 27 P 27

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(火)

質問順位 1番

質問者 議席番号 24番 茂市敏之議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 カーフェリー関連について	<p>① カーフェリーについて市及び県の考え方、対応、進捗状況が大変気になる。宮古港カーフェリー航路誘致実行委員会では、現在までどのようなことが話し合われたのか、諸々の事業計画の内容と進捗状況を伺う。</p> <p>② トラックターミナルが必要と思うが、用地の確保はどうか。また、企業誘致のための工業用地の確保はどう考えているか伺う。</p> <p>③ カーフェリー及び関連企業から、どの程度の雇用が見込めると考えているのか、早い段階での情報提供を望むがどうか。</p>	
2 観光振興について	<p>① 八戸市から気仙沼市までの海岸線約 300 kmが平成 25 年に「三陸ジオパーク」として認定された。同じく、八戸市から相馬市までの海岸線約 700 kmが「みちのく潮風トレイル」として今年度全面開通の予定である。観光振興に期待したが、相乗効果が出ていないのではないかと。問題点は何か。トレイルコースはどう決定し、進捗状況はどうか。</p> <p>② 私は、今まで再三にわたり新たな観光地の開発をすべきと提言してきた。理由は宮古市に宿泊する観光客が少ないからだ。魅力ある観光地を開発することにより、滞在時間を長くし、宮古市に宿泊していただかなければ観光振興しても意味がない。市長はどう考えるか。</p> <p>③ 将来の宮古市の観光はどうあるべきかについて話し合う場がないと再三申し上げてきた。宮古市観光戦略会議を作るべきと思うが、市長はどう考えるか。</p>	

<p>3 集中豪雨と危機管理について</p>	<p>① 今年9月10日～11日温帯低気圧と台風17号により線状降水帯が発生し、各地に集中豪雨をもたらした。その中で常総市三坂町上三坂地区など6地区、約350世帯に対し、堤防の決壊前に避難に関する情報が出されていなかったことが判明した。また、昨年の広島市での集中豪雨による土砂災害の際も、避難指示の遅れが指摘されていた。私は、昨年9月定例会で「宮古市が集中豪雨にあった時、範囲が広く、現場を見ての判断が難しい。だから、土砂災害警戒情報が県と気象庁から出た時点で避難情報を出すべき」と提言した。この事前防災行動計画（タイムライン）を決めてあるのか。</p> <p>② 昨年の質問の中で、「百年に一度の豪雨つまりアイオン台風並みの豪雨があっても閉伊川の浚渫がしっかり行われていれば閉伊川堤防を越流することはない」と答弁いただいているが、問題はこの浚渫だ。毎年、県に要望しているが進んでいない。県が予算をつけないので何ともならないで済む問題か。市の考えを伺う。</p>	
------------------------	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(火)

質問順位 2番

質問者 議席番号 19番 佐々木 勝 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 復興事業について	<p>① 大震災からの復興の途にある田老地区では、11月22日に「田老まちびらき」が行われ、ハード整備面での大きな節目を迎えた。事業の進展に伴い、新しいまちづくりに期待が広がる地域がある一方で、復旧復興が遅れている地域があるのも事実であり、早急な対応を求めてやまない。大幅に遅れている地域の一つに赤前地区がある。住宅再建に向けての対応は早かったが、平地の部分の今後についてどのような将来像を持っているのか、市長の見解を伺う。</p> <p>② 赤前地域開発の目玉事業としてブルーチャレンジプロジェクトが示されているが進展が見られない。</p> <p>地域資源を活用するこの事業は地方創生そのものであり、有望と判断するのであるならば、市自らが出資者となり運営会社を設立し事業化すべきではないだろうか。これまで、この事業に対する答弁は結論を先延ばす内容であったが、断念するのであれば早急に決断しこの地域の土地利用について具体的に検討すべきと考える。</p> <p>この事業そのものの将来性について、市長の見解を伺う。</p>	
2 フェリー航路開設について	<p>① 2018年春に宮古・室蘭間にフェリー航路開設の構想が川崎近海汽船株式会社より示され、宮古港の受け入れ態勢の構築に向け関係機関等は準備の最中と承知している。重要港湾として整備されながらも経済振興のための機能を発揮できないでいる宮古港にとってラストチャンスと捉えているのは私だけではない。期待を寄せる声が強くなる一方、市民の気運の盛り上がりは低調である。積極的に情報提供するためにも、市民を巻き込んだ実行委員会等の設置が必要と考えるが、市長の見解を伺う。</p>	

	<p>② フェリー航路開設構想の発表以来、室蘭市議会議員との意見交換の機会が複数回あった。フェリー運航による経済振興に期待を寄せる強い思いは一致している。室蘭市と強い絆を結び、経済発展のためお互いに協力し合うことを確認するためにも、姉妹都市の締結を同市に申し出るべきと考えるが、市長の見解を伺う。</p>	
--	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(火)

質問順位 3番

質問者 議席番号 6番 鳥居 晋 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 観光地の整備について	<p>田老地区では、土地区画整理事業も進み、来年以降新たに道の駅、産直施設等の運営が始まり、この施設への地域の期待は大きいものとする。また、津波遺構も整備され観光客の増大も期待できるものと思う。</p> <p>しかしながら、当地域での昔ながらの観光スポットであり、目玉であった三王岩周辺の整備は東日本大震災後ほとんど手付かずの状態であり、依然として立入禁止となっている。一昨年、日本最大の三陸ジオパークの一角のジオサイトとして認定されているにもかかわらずである。</p> <p>復興大臣は今後、観光振興にも大きく力を入れると話されている。国立公園は国の管理・整備が原則ではあろうが、早い時期での復旧を訴えていくべきと思うが、考えを伺う。</p>	
2 技能指導者に強力な支援を	<p>近年、各産業での後継者、担い手不足が深刻な問題となっている。大工、建具、左官など建築関係の技能職の担い手不足も例外ではない。第一次産業においては市独自の支援策も設けられ、成果は徐々に表れている。</p> <p>技能・技術の習得には年数がかかり、指導者たちの負担は大変なことであろうと察する。そのことが担い手不足の要因にもなっているようだ。</p> <p>過去には当市から技能オリンピックの国際選手を輩出した指導者もいる。このような指導的立場の人材、会社等の担い手不足解消、技術継承のために強力な支援策も必要と考えるが、見解を伺う。</p> <p>また、影の功労者ともいえるべき、表には出ずとも長年、こつこつと仕事に励んでこられた職人に対しても新たな基準を設け、その功績を称えるべきと思うが、併せて考えを伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(火)

質問順位 4番

質問者 議席番号 4番 佐々木 清明 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 サケの漁獲量不振の原因はなにか	みやこ漁協だよりによると、昨年の定置自営事業では、主力魚種であるサケの最終水揚は51万4,538尾で金額は9億7,584万円となっており、宮古魚市場の最終水揚金額は77億9,928万円と年々増えている状況である。しかし、今年は厳しい状況だと思うが原因はなにか。現状認識と今後の見通しについて伺う。	
2 湾内での海藻類の生育状況について	磯漁業の資源確保、増殖を図るため、岩手県からアワビの稚貝57,000個の無償提供を受け放流している。しかし、宮古湾内にはアワビのエサとなるワカメ、コンブなどの海藻類が育っていない。昨年は海藻が生育していた場所にも今年は少なかった。原因をどう捉えているのか伺う。	
3 貝類の生育状況について	宮古湾内には多くの種類の貝類が生息しており、今年はホッキ貝1トン、アサリ7.7トンを放流し資源保護をしている。しかし、養殖生物であるワカメ、コンブ、アサリ、ホッキ貝の生育状況がよくない。湾内では防潮堤工事が進んでいることから、工事と関係しているのかと思われるが、どう考えているのか伺う。	
4 カキ養殖業の今後の見通しについて	震災後、カキ養殖業は国の補助(漁業・養殖業復興支援事業)を受けているが、平成28年度で補助が終了し、その先は自力で進まなければならない。カキ養殖業にとっては厳しい状況になる。今後の補助について、どう考えているのか伺う。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(火)
 質問順位 5番
 質問者 議席番号 14番 橋本久夫議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 港湾戦略について	<p>(1) 東北・北海道太平洋4港連携による協議会構想について</p> <p>北海道室蘭港とのフェリー定期航路開設が現実的な動きとなってきた。物流、交流人口の拡大へと大きな期待がかかる。新たなネットワークの形成は地域振興への切り口ともなる。この好機をとらえ東北・北海道太平洋エリアにある、北海道室蘭港、苫小牧港、青森県八戸港と宮古港4港連携によるクルーズ振興協議会的な組織を起ち上げ、各々が持つ港や地域の魅力を最大限に活用しながら、宮古港の発展に結びつける考えはないか見解を伺う。</p> <p>(2) ポートコミュニティシステムの構築について</p> <p>物流、漁業、プレジャーボートなど海事関係で宮古湾に関わる全ての組織にとって海の情報の受発信のためのプラットフォームが必要である。各種船舶の出入港の把握から事故、災害、気象情報、湾内におけるイベント状況などを情報交換できるものとして、かつて存在していた漁業無線局にかわるポートコミュニティシステムとしてのポータルジオ等を新たに構築してはどうか伺う。</p> <p>(3) ポート・オブ・ザ・イヤー2015について</p> <p>日本港湾協会では、各種港湾活動やみなとまちづくりに関する話題づくりなどみなとの元気を高めた港湾を選定し、「ポート・オブ・ザ・イヤー」として毎年顕彰している。宮古港は今年、開港400周年を迎え各種事業が展開された。それらは宮古港の存在を内外に大きく発信でき、多くの市民や観光客の人気を集めた。宮古港も対象となっている「ポート・オブ・ザ・イヤー2015」グランプリへの手応えはどうか。</p>	

<p>2 国際化への対応 について</p>	<p>(1) ホストシティ・タウン構想への参加について 2019年ラグビーワールドカップ大会、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を契機に、多くの選手や来訪者と共にスポーツの振興、教育文化の向上及び共生社会の実現を図ろうとする地方公共団体について、国ではその登録を求めている。グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、本市としても積極的に登録参加をしてはいかがか、見解を伺う。</p> <p>(2) 国際交流協会の設立について 本年3月定例会で質問した国際交流協会の設立について、その後の動きが見えない。進捗状況を伺う。</p>	
---------------------------	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月16日(水)

質問順位 1番

質問者 議席番号 12番 須賀原 チエ子 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 災害公営住宅入居後のコミュニティづくりについて	<p>本年9月定例会において災害公営住宅の集会所のあり方について質問したところ、仮設住宅の集会所のような自由度はなくなるとの答弁であった。公営住宅の性質上、その点は容認する。しかし、仮設住宅での集会所は心の復興に寄与しており、そのコミュニティの場を失うことは心の支えを失うことになる。特に、男性は孤独になり易く、自殺者が増加する懸念もある。「男の談話室」などが大きな役割を果たしてきたことを考えれば、今後も仮設住宅の集会所と同様の形態で利用できる集会施設は必要である。</p> <p>県では、仮設住宅解体後、集会所や談話室として使用した施設を必要とする市町村に譲渡する用意があるとのことである。ユニットタイプのもは今後も十分利用可能と考えるが、この施設を新たなコミュニティの場として再利用してはどうか、市の考えを伺う。</p>	
2 被災者住宅再建支援事業について	<p>宮古市被災者住宅再建支援事業及び宮古市被災者すまいの再建促進事業は、申請期限がともに平成29年3月31日までとなっている。</p> <p>昨今の建設事情を勘案すれば期限の延長が必要と思われるが、市の考えを伺う。</p>	
3 市民と行政の共生のあり方について	<p>復興需要が過ぎた後の本市の経済の落ち込みを考慮すると、これから市民と行政との共生がより重要になる。</p> <p>そこで、今後は行政に様々なことを委ねるのではなく、市民同士がサポートしあう仕組みづくりが必要不可欠である。全国ではボランティアポイント制度を導入している自治体が増えている。例えば、介護ボランティア制度では、高齢者の介護予防とともに、ポイントを介護保険料の一部に充てている。横浜市の介護支援ボランティア制度「ヨコハマいきいきポイント」では65歳以上の方が、高齢者施設などでボランティアをした場合に、その実績がポイントとして積み重ねられる。1日の活動で200ポイントが加算される。1ポイント1円に換算され、年度ごとに8,000円まで換金ができる。</p>	

	<p>また、世代間の支え合いを取り入れるなどの新たな取り組みも生まれている。子育て部門では、子育てに一人で悩む母親が少なくないことから、行政が子育て支援に力を入れているために保育所や幼稚園、地域の子育てサロンなどで子育ての先輩である高齢者が手助けを行う支援の自治体も多い。</p> <p>この様な事例を参考にしながら本市でも早急にボランティアポイント制度を採用すべきと考えるが、市の考えを伺う。</p>	
<p>4 浚渫事業の実施について</p>	<p>昨今の異常気象による豪雨で河川が氾濫した場合、本市においても水害が想定される。</p> <p>八木沢川では津波の遡上に起因するものなのか、河川に樹木が生い茂り、水の流れが大きく変わっている。閉伊川や八木沢川は県の管轄であるが、早急に浚渫が実施されるよう市のはたらきかけが必要と考える。また、樹木の伐採や浚渫は市の管理河川においても必要と思われるが、現状と今後の対策を伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月16日(水)

質問順位 2番

質問者 議席番号 21番 竹花邦彦議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 保育所の待機児童解消と市立保育所の保育士確保について	<p>当市においても、保育士不足による待機児童問題が顕在化し大きな課題となっている。ついては、次の点について伺う。</p> <p>① 現状の待機児童数(市内)を伺う。</p> <p>② 待機児童の解消対策として、育児休業取得者の子どもを退園させる問題も国内で発生している。当市は入所児童保護者が育児休業取得した場合でも継続入所措置していると認識しているが、その理解で良いか伺う。</p> <p>③ 市立保育所の保育士不足は極めて深刻な状況にあり、待機児童の一層の増加につながりかねない現状と認識する。保育士確保に向けた対応策を伺う。</p> <p>④ 現状では臨時保育士の確保は相当困難であると思われる。これまでの臨時保育士依存の市立保育所運営を見直し、正職員保育士の採用増を図るべきと考える。市長の認識を伺う。</p>	
2 公契約条例の制定について	<p>岩手県は2月定例県議会で公契約条例を制定した。現段階では理念条例と位置づけられるが、3年後に条例見直しを行うこととし、労働条項等の盛り込みが検討される予定である。県の条例見直し時期にあわせ、当市の公契約条例を制定できるよう準備を進めるべきと考えるがどうか。市長の考えを伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月16日(水)

質問順位 3番

質問者 議席番号 2番 小島直也議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 不登校児童生徒の関わりについて	<p>本年6月定例会において、中学校でのいじめによる不登校について質問しましたが、それぞれの学校、教育現場で様々な努力、尽力されている教職員のご苦勞に心から敬意を表します。教育長の答弁では、「一人ひとりの生徒の思いや訴えをしっかり受け止め、適切な指導と迅速な対応を進めていく」と伺いました。この半年間で得た市内小中学校全体の成果を伺います。</p>	
2 若者の政治参加について	<p>来年7月に予定されている選挙では、初めて選挙権年齢が18歳に引き下げられます。国政選挙ではありますが、20代の若者を巻き込み、若者の政治参加を促すための啓発活動に力を入れて、全国的に低迷している投票率向上に挑戦してみてもいいかがでしょうか。市全体で主権者意識を養う市民教育を普及させ、投票率で全国1位を目指すことは素晴らしいことと思います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月16日(水)

質問順位 4番

質問者 議席番号 23番 坂下正明議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 川井地区のまちづくりと産業振興について	<p>東日本大震災から4年9カ月が経過し、これまでに震災からの復興を最重要課題として行政も議会も全力で取り組んできた。</p> <p>現在、国・県が実施する三陸沿岸道路や宮古盛岡横断道路、国道340号整備も一步一步前進している。今後は、これらの工事と併せて各地区のまちづくりと産業振興を考えていかなければならない。昨年と今年の議会報告会で区界地区と小国地区の方から要望をいただいた。</p> <p>そこで、以下4点について、市の見解を伺う。</p> <p>① 川井地区のまちづくりと産業振興の基本的な考え方について</p> <p>② 西の玄関口としての区界地区のまちづくりについて</p> <p>③ 小国地区の「里の駅構想」について</p> <p>④ 川井産業振興公社の経営改善計画について</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月16日(水)

質問順位 5番

質問者 議席番号 5番 白石雅一議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 宮古市の教育の現状と課題について	<p>宮古市の教育の現状と課題について、以下の点について伺う。</p> <p>① 平成27年度の岩手県中学校新入生学習状況調査において、「学校の勉強が好きですか」の設問に対し、77%の生徒が「好きだ」、「どちらかといえば好きだ」を選択しており、平成25年度の調査結果60%と比べて数値が上昇している。どのような施策や取り組みの成果だと思いか伺う。</p> <p>② 市において「中1ギャップ」という現象をどう捉えているか伺う。</p> <p>③ 小中学校間での情報交換や小学校での一時的な教科担任制の導入により、「中1ギャップ」はどのような変化を見せてきているのか伺う。</p> <p>④ 小学校からの学力向上が、進学の際の勉強面でのつまずきを防止する一つの役割を果たすと考える。放課後を利用した学習支援活動を実施する自治体が増えてきているが、市においてはその必要性をどのように捉えているか伺う。</p> <p>⑤ 地域における学習環境の格差を少なくするために、どのような学習環境整備の取り組みを市では行っていくのか、今後の展望について伺う。</p>	
2 ICTを活用した地域づくりについて	<p>ICTの活用について、宮古市ではどのように考えるのか、以下の点について伺う。</p> <p>① 総務省においてICTの活用による地域の活性化と地方創生が推進されているが、宮古市としてICT技術の活用をどのように考えているか伺う。</p> <p>② 今後、高齢化や人口の分散化を考えれば、ICTを活用した高齢者見守り事業を本格的に推進すべきだと考えるが、市の考えを伺う。</p> <p>③ ICTの技術発達によって、インターネットを通じて大量な情報のやり取りが出来るようになった。しかし、市内の光回線の普及率は100%ではなく、里山暮らしを希望する移住者の受け入れや里山ビジネスの展開において、不利な地域がある。市として対策をどう講じるのか伺う。</p>	

	<p>④ 閉校した校舎等の使われなくなった公共施設の利活用策として、ICT事業者に貸し出す取り組みが全国的に行われている。新しい産業としてICT事業等のベンチャー企業の誘致、若しくは起業を支援してはどうか、市の考えを伺う。</p> <p>⑤ 今後も発展して行く高度情報化社会に対応し、住民の情報利活用や公共サービス活用のためにも、専門の部署等を設けるべきと思うが、市の考えを伺う。</p>	
--	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月17日(木)

質問順位 1番

質問者 議席番号 26番 田中 尚議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 JR鉄道の復旧と今後の課題について	<p>完成後、三陸鉄道への経営移管が前提のJR山田線の復旧事業について、閉伊川橋梁の復旧に向けた着工式が行われたが、早期完成と今後の課題に向けた市の対応について伺う。</p> <p>① 完成までの工程表が示されているのか。区間によっては、まちづくりと一体で工程表が示せない個所もあるのではと懸念する。現在の状況を伺う。</p> <p>② JRは復旧条件に鉄道の利用促進策を求めた時期もあったが、マイレール意識の醸成だけでなく、鉄道の維持存続へ財政支援スキームの構築も必要と考えるが、市の見解を伺う。</p> <p>③ 施設が老朽化し、落ち葉で運行に影響の出ている同線の宮古・盛岡間の対応策と利用促進計画を示されたい。</p>	
2 地域医療連携について	<p>国は「施設」から「在宅」へ医療費削減を目的に病床数の削減を求めているが、高齢化の進行で増加する住民の要望に合わない問題も生まれている。県立宮古病院を中核とした宮古広域圏内における地域医療連携の目標と達成状況及び課題をどう認識しているか伺う。</p> <p>① 病床数削減へ市の見解はどうか。</p> <p>② サーモンケアネットの構築及びその運営による医療費削減効果をどのように評価しているか。</p> <p>③ 医療費抑制政策の結果、受診回数の減少も指摘されているが、予防医療政策の充実こそ必要と考える。市の見解と対応策を示されたい。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月17日(木)

質問順位 2番

質問者 議席番号 20番 落合久三議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 TPPからの撤退、調印中止を国に求めるべき	<p>安倍自公政権は、国民にも国会にも秘密のまま国会決議に反する譲歩を行い、交渉の間では他国に合意受け入れを迫った。農産物重要5品目で大幅譲歩をし、農林水産物の関税を大幅に撤廃し、自給率向上・経済主権を売り渡した。</p> <p>自民党と所属国会議員の75%は「一粒たりとも妥協しない」「そういう事態になれば政治生命をかけた阻止する」などと公約したが、誰一人として公然とそうした声を上げることはなかった。</p> <p>そこで、市としてTPPからの撤退と批准調印の中止を政府に強くはたらきかけるべきと思うが、市長の見解を伺う。</p>	
2 中心市街地拠点施設整備事業について	<p>中心市街地拠点施設整備事業に関し、以下の点について、市長の見解、認識を問う。</p> <p>① 市民交流センター設置目的の一つに、一時避難場所として防災機能を持たせるとしているが、市が計画している災害時の一時避難場所の設置と重複し過大投資となり見直すべきである。</p> <p>② 市は、本庁舎、市民交流センターの設計単価を1㎡当たり55万円、保健センターは同52万円で試算していると説明してきた。本庁舎建設の1㎡当たり単価を55万円とした根拠を示されたい。</p> <p>さらに、本庁舎整備の財源について、合併特例債を予定しているが、これは今後10年間の活用期間が残されており急ぐ必要はない。しかも、合併特例債枠を目一杯使うのも財政運営上の柔軟性を欠き、見直すべきだと思うがどうか。</p>	

<p>3 サンマ・サケ漁不振を踏まえた水揚げ増対策について</p>	<p>サンマ漁の不振に続いて、秋サケ漁も現時点ではきわめて不振である。今後、魚市場の拡張工事が始まり、ますます水揚げ増が求められることを踏まえれば、この水揚げ増対策を漁業、水産業の関係者と共に考え、打ち出すことが求められることから、以下の点について、市長の見解、認識を問う。</p> <p>① 魚市場の水揚げ増対策について、これまでも多方面から提起しており、関係者との協議も行っているが、改めて市の構想を伺う。</p> <p>② サケ不漁は多岐にわたる原因が指摘されており、一朝一夕で解決するとは思わない。しかし、解決策のひとつとして、ふ化場関係者や東北区水産研究所の専門家からも再三にわたり「稚魚の密殖状態の是正」「稚魚飼育尾数の削減」が提言されてきた。密殖状態のもとでは「エラの発育が不十分となりやすい」「脆弱な稚魚となりやすい」との指摘である。市の見解と対応策を伺う。</p>	
-----------------------------------	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月17日(木)

質問順位 3番

質問者 議席番号 7番 中島清吾議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 田老診療所について	田老三王地区に建設予定の診療所は無床での整備となるが、次の点について伺う。 ① 整備後の診療体制はどうか伺う。 ② 医師の勤務条件、医師住宅等の整備予定について伺う。 ③ 訪問診療について、今後も継続されるのか伺う。	
2 田老新駅について	田老新駅の整備については、田老第一小学校付近との話しがあるが、地元におけるニーズの把握、整備場所及び時期について、今後、どのようなスケジュールで進められるのか伺う。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月17日(木)

質問順位 4番

質問者 議席番号 9番 内 舘 勝 則 議 員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 積極的な自治組織活動の拠点づくりを	<p>自治組織は、被災地や山間地集落の住民の孤立を防ぎ、特に高齢者の見守り機能も担っている。</p> <p>公共施設の再配置計画における各集会所の位置付けは、移転、処分という内容になっているが、自治組織活動の拠点となっており、重要なポイントである。公共施設の再配置計画においては、十分実態を把握し、市民の意見、意向を聴取のうえ、杓子定規で全て移管、処分することないよう、より丁寧な対応していただき、積極的な自治組織活動の拠点づくりを進めるべきと考えるが市長の考えを伺う。</p>	
2 定住促進対策の戦略と具体的な取り組みについて	<p>定住化対策は喫緊の課題である。危機的状況に置かれている現実と向き合い、しっかりとした戦略を持ち、総合的に取り組む必要がある。</p> <p>そのためには、新年度に向けてどのような事業メニューを組み立て、予算化し、実行していくかが重要である。</p> <p>定住促進対策の戦略と具体的な取り組みについて伺う。</p>	
3 選挙権年齢 18歳以上に向けての施策について	<p>選挙権年齢を18歳以上に引き下げる改正公選法が本年6月成立し、来年夏の参議院議員選挙から適用される。</p> <p>今回の70年ぶりの改正を契機に、若者の政治・選挙への関心が着実に高まるような新有権者への教育の充実が喫緊の課題である。</p> <p>本市では、これらの課題にどのような考え方で取り組む考えなのか伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月17日(木)

質問順位 5番

質問者 議席番号 8番 伊藤 清 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 シカ対策について	<p>年々増加しているシカが農林業被害に加え、線路や道路などに出没し列車の遅れや、車と衝突する事故が多く発生するようになってきている。タクシーや運転代行のドライバーから、シカが10頭くらいの群れで道路脇にいたり、突然道路を横断したりと、とても怖いとの苦情が猟友会に寄せられている。</p> <p>現在、宮古市では鳥獣被害防止対策協議会が発足され、猟友会による駆除やパトロールが行われているが、捕獲が追い付かない状況である。シカは主に夜間に活動するので、日中の捕獲は難しいものとなっている。人家の近くや車が頻繁に往来するような道路まで出没している状況は、山奥ではなく山裾に生息しているものと思われる。</p> <p>そこで、私が以前提案した緩衝帯を整備し、山裾をすっきりさせ、シカが居着かない状態をつくるべきと思う。併せて、ネットやフェンスも張り巡らすなどして対策すべきと考えるが見解を伺う。</p>	
2 宮古市墓園に合祀墓の設置を	<p>当市に限らず、後継者が地元にはいない、戻らないなどの理由で、管理されないまま放置されている墓地が多くなっている。市内の寺院においても増加しており、市墓園においても今後増加が見込まれると思う。</p> <p>当市を離れる若い方の中にも親や先祖のお墓を守れないとして、合祀墓を希望する方もいる。市墓園内に合祀墓を設置することについて見解を伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(金)

質問順位 1番

質問者 議席番号 1番 今村 正議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 市庁舎移転について	<p>この市庁舎には合併特例債を充てるが、その約30%は、1億円ずつ30年間の借金返済であります。25年後には宮古市の人口は32,166人との予想もあります。この人口減の状態ですら誰がその借金を払うのでしょうか。</p> <p>住民投票を実施して、民意を問うべきであります。あらためて、市長の見解を伺います。</p>	
2 生ごみ処理について	<p>9月定例会において、盛岡紫波地区環境施設組合「リサイクルコンポストセンター」による生ごみ処理の先進地事例を質問したところ、資料を見て内容がよく理解できたとのことでありました。</p> <p>課題も多いようですが、焼却経費削減のひとつの方法でありますので、再度、前向きに検討すべきと考えます。市長の見解を伺います。</p>	
3 宮古市広域総合交流促進施設「シートピアなあと」について	<p>① 去る11月8日の新聞報道によると「来店者数、震災前の7割に、駐車場の拡張も奏功」とありました。</p> <p>この記事によると「旅行代理店からの団体予約は9、10月の2か月間で6件に。」「施設を管理する宮古地区産業振興公社は「国道45号沿線周辺にはまとまった昼食を提供できる施設が少ない。大手旅行代理店からも少しずつ認知されるようになり、飛び込み客も増えてきた」と回復に期待を示す。」とのことでした。</p> <p>これは民業圧迫の事例であろうかと思えます。そもそも交流施設建設において、百歩譲ってレストランは良しとし、併設されている体験学習室及び研修室において食事の提供がなされることを想定してこの施設が存在するのでしょうか。</p> <p>市長の見解を伺います。</p>	

	<p>② 旭化成建材の杭打ち工事におけるデータ流用が報じられておりますが、確かめたところ「シートピアなあと」においても、この会社の杭打ち工事が行われたとのことであります。</p> <p>「シートピアなあと」建設における杭の支持地盤への到達調査はどのようなになっているのか伺います。</p>	
--	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(金)

質問順位 2番

質問者 議席番号 11番 佐々木 重勝 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 防災について	<p>① 地域防災力の中核として欠かすことのできない消防団員が、全国及び当市においても減少傾向にあるが、この現状をどのように捉えているのか見解を伺う。</p> <p>② 災害に強い「安全なまちづくり、地域づくり」において、土地区画整理、防災集団移転事業等面的整備事業は一定の目途が示されているが、破壊された防潮堤、新規計画の水門及び藤原の防潮堤の整備状況と完成後の管理運営について、どのように捉えているのか見解を伺う。</p>	
2 崎山地域の現状と課題について	<p>① 崎山第3地割地内においては、小中学校、保育所及び一般住宅約180世帯が混在しており、団地等の造成も行われ、さらに人口増が見込まれるが、交通アクセスは国道45号より崎山自治会館経由の市道(バス路線)1本のみであり、災害に強いまちづくり、地域づくりのためにも複数の路線確保が必要不可欠と思うが見解を伺う。</p> <p>② 崎山地区における、生活雑排水に伴う合併浄化槽の整備状況と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>③ 休暇村陸中宮古に至るまでの市道崎山古里線の歩道及び側溝の全線整備について、これまでの取り組みと今後の展望を伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(金)

質問順位 3番

質問者 議席番号 10番 北村 進 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 仮設商店街への支援について	<p>東日本大震災発災から4年9カ月が経過したが、田老地区の仮設商店街「たろちゃんハウス」は、被災者の生活を今なお支え続けている。</p> <p>新天地での住民の生活場所は大きく3つに分かれ、それに伴い商店もそれぞれに分散して本設される予定であり、加えて、本設復旧は商店ごとに一律ではないことから、たろちゃんハウスの全ての商店が本設での復旧を完了するまでは支援を継続すべきと考えるが見解を伺う。</p>	
2 引きこもりについて	<p>本年9月定例会において「高校中退者やニートの現状を把握すべき」と質問したところ、「早期把握に関して難しい状況である。関係機関で組織し、生活困窮者の支援プランを検討する「支援調整会議」のなかで、情報交換や対応策の検討を進めている」と答弁をいただいた。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>①「支援調整会議」における課題は何か。また、今後の調整会議の方向性を伺う。</p> <p>②中学校卒業時における、過去10年間の「30日以上の欠席」の不登校の生徒数を把握しているか伺う。</p> <p>③上記の生徒の進路の実態は、どのように把握しているか。また、その後の追跡調査はなされているのか伺う。</p> <p>④秋田県藤里町社会福祉協議会は「引きこもり」の定義を「55歳未満で過去2年間無業の者」とし、人口4,000人の中でおおよそ100人が「引きこもり」と捉え、その社会復帰に取り組んでいるが、この事例をどのように評価するか見解を伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(金)

質問順位 4番

質問者 議席番号 22番 松本尚美議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 三陸鉄道の自立について	<p>① 三陸鉄道株式会社は、平成27年3月決算において8,683万円の黒字計上をし、安定経営、運営できる状況になっている。厳しい沿線市町村財政の負担、補助金がなくても十分経営できる経営陣であると思うが、取締役副会長である市長の決算を踏まえた見解を伺う。</p> <p>② 三陸鉄道株式会社の損益計算書を見ると、鉄道事業においてのコストを25%削減することにより収支が均衡し、更に安定経営が可能と思う。公費負担、税金投入を減らすためにもコスト削減の積極的取り組みが必要と思うが、経営陣からどのようなコスト削減計画が示されているのか。また、取締役副会長として市長はどのような意見を経営陣に示しているのか伺う。</p> <p>③ 支援事業はなくても三陸鉄道株式会社が自ら利用促進に十分取り組める人材と能力を持ち合わせていると考えることから、震災復興費を除く運営強化支援事業、特に利用促進支援事業の市長としての評価を伺う。</p> <p>④ JR山田線宮古釜石間の運行移管を三陸鉄道株式会社が受けることを前提に施設復旧が進められているが、未だ経営収支計画が示されていない。沿線市町村の財政負担が更に拡大し、自治体財政を強く圧迫することが懸念される。自立運営を前提に望月社長を中心に幹部職員に任せることが必要であり、私は可能と考えるが、取締役副会長である市長の見解を伺う。赤字補填的性格の支援、補助金の投入は絶対に回避すべきと考えるが、市長の見解を伺う。</p>	

<p>2 地域連携の具体化について</p>	<p>近隣自治体との連携強化が必要との提言を昨年の9月定例会も含め行っているが、「合併（田老・新里・川井）が地域連携の具体化のひとつであり、三陸ジオパークや三鉄の活用の取り組みなどで成果を出す必要がある。地域連携は宮古市の負担が大きすぎて難しい。県が取りまとめることが良い、経済、観光面では盛岡広域圏とつながればと考えている。」と市長の見解が示されている。</p> <p>私は沿岸の中核都市と自負している宮古市が、宮古市長が積極的に声を掛け、全般にわたって具体的に何が連携できるか、テーブルを設け、スタートさせる必要があると考える。そのきっかけになる国のメニューが定住自立圏であり、市長は対応しないと明言しているが、改めて方針転換し、地域連携の具体化を図ることを提言するとともに市が示した連携（盛岡広域圏）の具体化の現状について伺う。</p>	
<p>3 事務事業評価はどうなっているか</p>	<p>現在、公共施設再配置計画を実行段階へ進めようとしている。進めることには賛同するが、公共施設だけでなく喫緊の大きな課題として、事務事業の見直しが求められている。現在、事務事業評価は中断しているが、人口減少抑制、地方創生（まち・ひと・しごと）に資する財源確保のために、現在実施されている事業、施策をしっかりと評価するとともに、選択と集中の方針のもとに血を流す覚悟で再開しなければならないと考える。震災により復旧、復興に忙殺されているが、近々に再開したいとのことであったが、現在の状況について伺う。</p>	